



**みなもと小の児童に
身につけさせたい14つの力**

- 1 人を大切にする力
- 2 自らの考えを持つ力
- 3 自分を表現する力
- 4 チャレンジする力

早いもので2月が終わろうとしています。今年度も残すところ1か月となってしまいました。

「コロナウイルス(オミクロン株)の感染拡大防止のために、分散授業・分割授業を行う」という知事からの要請が出されました。本校は小規模校ということで分割授業を選択し、比較的人数が多い学年を二つの教室に分け、リモートで同じ授業を受けることを行いました。次に多い学年は比較的広いPC教室を使い授業を行いました。また、全校で、教室に入る前の健康チェックや手洗い、換気、密回避の徹底やリスクの高い給食時の黙食の徹底を行ってきました。児童や職員の負担は大きかったですが、「コロナに負けない!」を合言葉に、みんなで頑張っており取り組みました。

みんな思いは同じだと思いますが、早く終息してくれればよいなと願っています。

全校一斉漢字テスト・全校一斉計算テスト

2月9日(水)に全校一斉漢字テスト・10日(木)に全校一斉計算テストが行われました。1年生は既習の10問、2年生は1. 2年生の問題20問、・・・というように答えます。したがって、6年生は1年から5年までの問題、全問を答えなければなりません。今の学年までの確かめができる良いテストだと思います。

毎年6年生が行っている全国学力学習状況調査(全国学力テスト)では、いろいろな学年からの問題が出されます。しっかり、今の学年の学習内容を理解し、積み重ねていかなければなりません。残り1か月、今の学年の学習をしっかりと振り返り、次の学年につなげて行ってほしいと思います。

1年生 がんばったでしょう

先日、1年生の教室をのぞいてみると、全員が賞状をもらっていました。「がんばったでしょう」という賞状で、なわとびの初級コ



ースのすべてを合格したというものでした。賞状をもらい子どもたちは嬉しそうとても良い顔をしていました。

大人でもそうですが、努力を認めてもらうということは、とても嬉しいものです。子どもならなおさらです。3学期も終わりに近づいてきました。いろいろなところで子どもたちの頑張りを褒めてあげたいですね。ご家庭でも子どもたちの頑張りをたくさん褒めてあげてください。

6年生 保護者への感謝の会

2月15日(火)、6年生が体育館で、お家の方への感謝の会を行いました。コロナの感染拡大が心配され、知事の要請が出されている中ではありましたが、広い体育館で、感染対策を十分にしながら、短時間で行いました。子どもたちの小学校での思い出やお家の方への感謝の言葉の発表やプレゼント渡し、小学校の思い出をスライドで振り返りました。保護者代表の中澤さんから巣立つ子どもたちにエールを送っていただきました。とても温かい会になりました。6年生には、今まで応援してくれた方々への感謝を胸に巣立って行ってほしいと思います。



全体を通して

すべての項目で、肯定の評価が多かった。一学期に引き続き、学校長の考える学校経営グラウンドデザインのもと、全教職員が一丸となって学校活動に取り組んでいると言える。ただ、評価が下がっている項目については、考察し、より良い改善に向けていきたい。

学校教育目標、経営方針・学校運営

○すべての項目において、肯定的な評価であった。

- ・「PDCA サイクルに基づいた改善の意欲」「校務分掌に基づいた学校運営の参画」については、職員個々の意欲が高く、それぞれの役割の中で機能的に動いていると感じる。また、「職員の相互理解・信頼関係」「チーム源の下での指導」についても評価が高く、職員が相互に連携を取りながら一丸となって児童の教育に向かっていているといえる。
- ・「危機管理意識の保持」については、職員自身の綱紀保持だけでなく、自然災害・事故などの緊急事態、いじめ等の他、コロナ感染症対策に向けても徹底していく必要がある。折に触れて職員間で話題にし、互いに意識化を図っていくことが必要である。
- ・「専門性の向上」については、A評価からB評価への若干の傾きが見られる。日々の仕事や課題に追われ、自分の専門性を高めたり、クラスの取り組みを工夫したりする時間的余裕が持ていない現状も理由として考えられる。働き方改革も進める中で、職員に時間的な余裕が生まれるようにすることも必要である。

学級経営、学習指導

○いずれも肯定的な評価が多いが、1学期に比べて若干下がっている。

- ・児童理解については、情報交換やケース会議などを通して個々の児童を共通理解し、学校全体で支援していこうとする風土がある。それらがより良い学級経営につながっていると考ええる。ただ、児童の課題は依然として多く、なかなか解決しない事案も多い。職員相互の連携とリレーションを大切にしていきたい。
- ・学習指導に関しては、本校では、算数において市単講師による学習支援体制を仕組むことで個々の支援を厚くしたり、放課後学習を実施し、学習面で遅れのある児童の支援に取り組んだりしている。肯定的な評価が多いが、「きめ細かな指導」についてはB評価が増えている。コロナ感染症対策などが続く中で、2学期から運動会や学習発表会などの学校行事を粛々と進めてきた。悩みながらの取り組みであり、学習指導以外に並行して取り組まなければならない場面が多々あった。そのような現実も一因と考える。行事への取り組み方を再考し、担任が学習指導に向き合える精神的・時間的な余裕を生み出すことが必要だと感じる。
- ・家庭学習については、家庭との連携が不可欠である。家庭学習週間を設けるなどして、家庭への協力を呼び掛けてきた。ただ、家庭によっては児童に十分目を向けられない現状もあるので、今後も粘り強く働きかけていく必要がある。

児童理解、生徒指導

○いずれも肯定的な評価が多い。

- ・「児童の規範意識への指導」については、「あいさつ」「くつの整頓」「うがい・手洗いの遂行」など、全職員で確認しながら指導に当たってきた。多くの児童が落ち着いた生活を送っていると感じる。また、「いじめ・不登校・問題行動への対処」についても、担任・教務・養護教諭・特別支援コーディネーターなどが連携し、外部機関も積極的に活用する中で、意欲的に取り組んできた。今後も、担当を中心に組織的なチームとしての動きを進めていくことが大切だと感じる。

保護者・地域連携

○肯定的な評価が多い。

- ・担任や養護教諭が保護者とこまめに連絡を取り合う姿が日常的に見られ、保護者の学校への信頼感を生んでいると感じる。これからも家庭とのきめ細かな連携を大切にしていきたい。
- ・地域の方の学校への関心は依然として高い。コロナ感染症対策のため、実際の協力の機会は減少したが、それでも「にこにこサロン」のお年寄りによる学校の農作業へのお手伝い、地域の方による児童登校中の見守りなど自主的な協力が見られる。また、愛育会との連携活動も新たに加わった。今後も地域との結びつきを大切にしたい。
- ・学校からのお便りは充実しており、校長による学校だより、各担任による学年通信、各分掌からの保健・図書・給食だよりなど、その時々合わせた情報提供が家庭との共通理解を育てている。

